

# 部活・サークルと私

## —信頼できる友人—

A-1 藤本 弦

### 1. 部活・サークルの紹介文

私にとって最も大切なコミュニティは、部活やサークルである。特に運動部やスポーツサークルが大切だと考えている。大切と感じた主な理由は、スポーツやみんなと体を動かす事などを通して信頼できる仲間ができるからである。今まで水泳、サッカー、バスケ、軟式テニス、硬式テニス、バレーとやってきて、やり始める理由は家族の勧めやもともと友人の影響など様々ではあるが、どんなスポーツであれチーム仲間やライバル、応援してくれる人たちと練習や試合などを通して自然に仲良くなることができる。私は小さいころ、父親の仕事の都合で転勤が多く、引っ越しのたびに新しいクラスやクラブ活動に入り、いろいろなところで友達ができしたが、今でも連絡を取り合い、遊ぶ約束したりするのは昔のクラスの友達などよりもクラブチームや部活動で一緒に活動していた仲間がほとんどである。

そもそも部活やサークルといったコミュニティは自分の技術を向上させる場であり、友達をつくることを目的としたレクリエーションのようなコミュニティではない。しかし、私はこの部活やサークルといったコミュニティの大切な部分は技術を向上させた結果ではなく、その過程であると考え。その過程において仲間との協力や競争はとても重要なことである。また、そのコミュニティが解散または引き継ぎした場合そのスポーツの技術は選手などにならない限りそこまで重要視はされない。それよりも今後助け合える仲間の存在理由こそが大切だと考え、今回このコミュニティについて考えていく。

### 2. インタビュー相手

私はインタビュー相手として高校の硬式テニス部の友達にインタビューしてみようと考えた。他にも小学校や中学校のいろいろな部活やクラブ活動で練習に取り組んだ仲間もいるが、やはり高校時代の部活動の仲間が最も自分にとって信頼のできる仲間であると感じたからである。

私の所属していた硬式テニス部は自分たちの年は40人以上おり、またよく遊びに来る仲のいい先輩たちもあわせるととても多く、1人ひとりがクラスでの盛り上がりを中心にいるような人ばかりで私の高校ではとても有名な部活だった。テニスの技術面では、私はそこまででもないが静岡県の東部では、弱い部活ではなく、全員まじめに部活動に

取り組み、部の活動外でも自主的に練習をしたり、部員同士で集まり遊びに行くことが多く、とても仲が良く高校生活のほとんども誰かしら一緒にいることが多かった。そこで私はそんな部活をまとめていた部長と部活のメンバーの中でも最も仲の良かった友人をインタビューし、コミュニティについて考えることにした。

### 3. インタビューの結果

インタビュー相手は高校の部活をまとめていた部長と部活のメンバーの中でも最も仲の良かった友人で、茨城と北海道にいるため、直接会って話すのは難しいと考え、ソーシャルネットワークサービスである LINE を用いて私の考える大切なコミュニティについて話をし、その後「自分にとって大切なコミュニティはなにか？また、その理由はなにか？」「部活・サークルというコミュニティについてどう考えているか？」という2つのことについて質問を行った。また、レポートの課題に必要なだと言ったため2人ともしっかりと時間を取り、とてもまじめに答えてくれた。

部長： 彼の考える大切なコミュニティについて質問したところ、大切なコミュニティとは自分の世界を広げる場であり、大学の学生委員会のような男女ともに人数が多く、さまざまな価値観や技術を持った人たちのいる場である。

そこで、部活・サークルのようなコミュニティについてどのように考えているか質問したところ、彼にとって部活・サークルのようなコミュニティとは、仲間とともに自分の技術を向上させることのできる場であり、自分にとって大切なコミュニティの1つと言えると答えた。また、部活というコミュニティではしっかりとした組織的な枠組みがなく、特に高校の部活は全員が個性豊か過ぎてしっかりとまとめることができなかつたとも言っていた

彼の意見は、自分と同じように部活・サークルというコミュニティについて大切であると感じているが、その理由については少し違いがあり、自分の世界を広げ、深めることが最も重要であるとのことであった。

この意見を聞いて、私にとってもその理由は大切であると感じた。スポーツにしる学問にしる、多くの人と交流し共に高め合うことは、1人で取り組むよりもいい結果が得られると思ったからである。また、その高め合いによりいい結果だけでなく、いい信頼関係を築くことができるのではないかと感じた。

友人： 彼にとって大切なコミュニティとは何かと聞くと、20分くらい悩み、クラスや部活のように同一の目標に向けてともに助け合い、向上していくような場であり、それによってできるつながりも大切であると答えた。しかし、言葉で表してもなかなかしっくりこない、難しいと答えていた。

彼の意見は私の意見と部長の意見を掛け合わせたような意見であり、助けあいによる技術の向上、そしてそれによる仲間とのつながり。そのどちらも大切だ。ということである。

私は今回のインタビューを通して、自分と同じコミュニティに属するひとでもそれぞれそのコミュニティに対する感じ方は違うにしても、根本的には同じようなことを大切と感じており、それは、ともに技術を向上しあうこと、それにより信頼できる仲間がで

きることであることがわかった。

#### 4. 部活・サークルと私

今回のレポート作成の過程においてコミュニティについて考えたり友人にインタビューすることで、他の人が自分と同じように部活などのコミュニティを大切と感じたり、まったく違ったコミュニティを大切と感じたりする中で、なぜ他の誰にとってもなく自分にとって大切なのか考えてみると、今まで19年生活してきた中で楽しかったことや苦しかったこと、またそれを乗り越えることができうれしかったことなどの自分を成長させてくれた思い出のほとんどが部活やクラブ、サークルの仲間との思い出であったからであると感じた。

私はこれからも大学在学中はもちろん、社会人になってもなんらかの運動することを目的としたコミュニティに所属し、いろいろな人とかかわり、いろいろなことを経験し、より多くの信頼できる友人をつくっていきたいと考えている。

そして、小中高と一緒に活動していた部活の仲間たちとも今と変わらず、付き合っていきたいと考えている。

また、現在所属している部活とサークルでは、そこに属するメンバーともっと仲良くなり、全員で今よりもさらに楽しく、互いに成長し合えるようなコミュニティにしていきたいと考えている。

#### 5. クラスについての感想

今回多文化コミュニケーションという講義をとって、中国や韓国などからの留学生と実際に話をし、今まで自分のもっていた外国の固定的概念、悪くいえば偏見などがなくなった。例えば、韓国のひとはTVのニュースなどからか全員学歴などをすごく意識して、頭がいいがピリピリしているイメージだった。また、中国の人は日本人が嫌い、怖い人たちなんだと勘違いしていた。TVや新聞などは出来事のある一面しかとらえておらず、全部がわかるわけではないとはわかっているものの、やはりそのような報道が多くされるとその印象がいつの間にかついでにしまっていた。私はもともと実際に外国の人と話をし、自分の中で本当の印象をつくりたいと考えていたのでいい機会になった。これからもこういう機会を増やしていけたらと感じた。

また、今回のレポートを通して今まで考えたこともないコミュニティというものについて考えることができた。1人1人がそれぞれ多くのコミュニティをもっており、いろいろな人と話し合うと、その人にとって大切と感じているコミュニティから、その人の人間性やこれまでの経験などがわかると感じた。